

第1学年3組 国語科 学習指導案

令和2年10月19日（月）第5校時

場 所 1年3組 教室

指導者 教諭 高橋 千恵美

- 1 単元名・教材名 頭脳でも勝負！体育祭で勝利をつかむため、記録文をまとめよう。
「シカの『落ち穂拾い』—フィールドノートの記録から」（光村図書）

2 生徒の実態と本単元の意図

(1) 本単元に至るまでの指導の系統

育成すべき国語の能力 〔思考力、判断力、表現力等〕 C 読むこと	学習内容	単元・教材名 〈実施時期〉	学習活動と関連する 他領域等の指導
・ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらか読みたりすること。 【小5・6年ウ】	・ 要旨のとらえ方 ・ 事実と意見の読み分け	「笑うから楽しい」 〈小6年〉 「時間の時計と心の時計」 〈小6年〉	・ 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕 (小5・6年 キ)

(2) 生徒の実態と本単元の意図

本学級の生徒たちは、これまで2つの説明的文章を学習し、段落の役割や文章の構成に着目して読むことについて学んできた。また、「新聞記事をスクラップして、ニュース番組を作ろう」という学習において、気になった新聞記事をスクラップし、その中からニュースとして伝えたい記事を1つ選び、原稿にまとめるという活動を意欲的に行うことができた。

しかし、新聞記事の5W1Hに関する情報については整理できていたものの、事実と意見については区別することができず、原稿に記者の意見をそのまま書いている生徒も見られた。また、図表が使われていても、それらを参考にする生徒は数名しかおらず、ほとんどの生徒は記事に書かれている文章のみを参考にしていた。

本教材文は、観察→仮説設定→検証→考察という構成になっており、小見出しによって事実と意見のまとまりが分かりやすく示されている。また、図や表が豊富に提示され、それぞれの図表が筆者の考えをどのように支えているかを読み取りやすい作品である。

そこで、本単元では、本教材の特徴を生かして、観察や調査からどのような事実が明らかになったのか、それらの事実は、どの意見や考えを支えているのかという関係に注意しながら文章を読むことと、どの文が図表中のどの部分に対応しているかを具体的に読むことを経験させたい。

また、実際に記録文にまとめるという活動を行い、体育祭練習で種目の結果を記録にとるという調査を通して、どのような事実が明らかになったのか、また、それらの事実をもとに仮説を立てて検証することを通して、どのようなことを考えたのかということを体験することによって、より事実と意見や考えについての区別や図表が使われている意味を実感することができるのではないかと考える。

3 単元の目標

- (1) 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使うことができる。〔知識及び技能〕(2)イ
- (2) 文章の中心的部分と付加的な部分、事実や意見との関係などについて、叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ア
- (3) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして思いや考

えを伝え合おうとする。

〔学びに向かう力，人間性等〕

4 本単元における言語活動

記録文を読んで理解したことを基に，実際に記録文をレポートにまとめ，報告する。

（関連：言語活動例ア）

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比較や分類，関係付けなどの情報の整理の仕方について理解を深め，それらを使っている。(2)イ)	①「読むこと」において，文章の中心的部分と付加的な部分，事実や意見との関係などについて，叙述を基に捉え，要旨を把握している。 (C (1)ア)	①粘り強く文章の要旨を把握し，学習の見通しをもって記録文をレポートにまとめ，報告しようとしている。

6 指導と評価の計画（全7時間扱い）

	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	○学習のねらいや進め方について理解し，学習の見通しをもつ。 ○これまでに学んだグラフの種類について振り返る。 ○「シカの『落穂拾い』」の範読を聞く。 ○キーセンテンスについて確認する。	○キーセンテンス	○実際に記録したものをレポートにまとめ，発表するという，学習のゴールを確認する。 ○自分で記録文を書くために教材文から書くためのコツを読み取るという，目的意識をもたせる。
2 本 時	○二種の動物がつながりをもって暮らしている理由を3枚のグラフを用いて説明する。 ○事実について確認する。	○図表の読み取り方 ○図表と文章との対応関係	○それぞれの図表の情報を読み取り，根拠を説明できるようにする。 【思考・判断・表現】① ノート ・ここでは，図表と文章との対応関係について理解しているかを確認する。
3	○事実と意見について区別する。 ○筆者の文章の特徴を知り，記録文を書くコツを見つける。	○事実と意見との関係 ○記録文の特徴	○事実と意見について区別できるようにする。 ○記録文の特徴について理解できるようにする。 【思考・判断・表現】① ノート・話合いの様子 ・ここでは，事実と意見との関係について理解しているかを確認する。
4	○体育の時間にとった記録をもとに，グループで分析し，分かったことを図表にまとめる。	○記録の分析の仕方 ○図表の作成の仕方	○データが分析できるように事前にデータを記録しておくようにする。

			【知識・技能】① ワークシート・付箋 ・ここでは、記録したデータを付箋に整理し、図表にまとめているかを確認する。
5	○前時でまとめたことをもとに仮説を立てる。 ○体育祭で仮説を検証してもらうために、クラスで仮説を共有する。	○仮説の立証の仕方	○データから明らかになったことを基に仮説を立てさせる。 ○仮説の立て方を教材文で確認させる。 【思考・判断・表現】① ワークシート・話し合いの様子 ・ここでは、作成した図表を基に、仮説を立てているかを確認する。
6	○体育祭で検証した結果をもとに、個人で考察した後、グループで考察についてまとめる。 ○レポートの構成を確認し、レポートにまとめ、発表原稿を作成する。	○レポートの構成 ○図表と文章との対応関係 ○事実と意見との関係 ○考察のまとめ方	○体育祭で検証したことを基に考察をまとめさせる。 【思考・判断・表現】① ワークシート・レポート 話し合いの様子 ・ここでは、検証したことを基に、図表と文章との対応関係や事実と意見との関係を押さえて考察をまとめているかを確認する。 【主体的に学習に取り組む態度】① レポート・発表原稿 ・ここでは、教材文で学んだ図表と文章との関係、事実と意見との関係、考察のまとめ方などを振り返りながらレポートや発表原稿に書こうとしているかを確認する。
7	○まとめたレポートについてグループで発表し、読み比べる。 ○相互評価をする。 ○単元の振り返りをする。	○レポートの発表の方法 ○相互評価の観点と方法 ・図表の使い方 ・事実と意見の使い分け ・考察の分かりやすさ	○互いの考えについて確認し、今後にも生かせるようにする。 【主体的に学習に取り組む態度】① 評価カード ・ここでは、評価カードに観点に基づいた記述をしようとしているかを確認する。

7 本時の学習指導（2/7時）

（1）目 標

- ・文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。〈思考力・判断力・表現力等〉C (1) ア

（2）評価規準

- ・文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。【思考・判断・表現】

(3) 展 開

学 習 活 動	学 習 内 容	指導上の留意点・評価	時間
1 前時の学習内容を確認し、本時の学習課題を確認する。		○既習内容を確認する。 ○グラフと小見出しを抜いたプリントを配布する。 ○学習課題を示す。	5
【学習課題】記録したことを分かりやすく説明する書き方を探ろう。			
2 3枚のグラフ（図1，図2，図3）を使って、説明する文章をまとめる。	○グラフの読み取り方	○3枚のグラフを配布する。 ○グラフを使う順番は自分で決めてよいこととする。 ○グラフの順番が決まったらノートに貼る。 ○まずはグラフだけを見て文章にまとめるように伝える。	20
＜期待される生徒の反応＞ ・「草の量」を見ると4月が一番少ない。しかも、「シカの体重」を見ると3月が一番軽くなっている。そこで、「落ち穂拾い」に出会う割合を見ると4月が一番多い。食べるものがない時期に落ち穂拾いをしているのだと考えた。（順番：図2→図3→図1） ・「シカの体重」を見てみると、3月が一番軽いことが分かった。なぜかなと思って「草の量」を見てみたら1月～4月までは草の量が少なかった。それでシカはこの時期に食べるものがないので「落ち穂拾い」をするのかなと考えた。そこで、「落ち穂拾いをする割合」を見たらやはり4月が一番多かった。（順番：図3→図2→図1） ・どうして4月に落ち穂拾いが集中しているのか疑問に思ったので、「草の量」を見てみたら4月が一番少なかった。「シカの体重」を見たら3月が一番軽いことが分かった。だから4月に「落ち穂拾い」が集中しているんだと考えた。（順番：図1→図2→図3）		評価場面1 【思考・判断・表現】① ＜評価方法＞ ノート ・ここでは、3つのグラフの情報を基に、その特徴を読み取って説明する文章をまとめている生徒をBとする。 ＜「努力を要する」状況（C）への手立て＞ ・グラフからわかることを一緒に確認する。どうしても読み取れない場合はヒントカードを見るように促す。	
3 ノートにまとめた内容をグループの仲間に説明し合う。	○考えた根拠	○グループは3人とする。 ○選んだ順番と、そう考えた根拠を説明する。	10
4 3枚のグラフが対応している部分の文章をそれぞれ確認し、事実が書かれていることを理解する。	○図表と文章との対応関係 ○事実の記述の仕方 ○グラフの必要性	○グラフと文章が対応している部分を確認し、グラフを貼らせる。 ○グラフには事実が書かれていることを確認する。 ○グラフがあることで文章がより分かりやすくなるというコツを押さえる。	8
＜期待される生徒の反応＞ ・グラフを戻した場所には「わかった」という言葉が書かれてある。 ・「わかった」ことが事実ということなのかな。 ・グラフには文章には書かれていないことが書かれているから、やはりグラフはあった方がいい。		評価場面2 【思考・判断・表現】① ＜評価方法＞ プリント ・ここでは、文末表現に着目し、グラフと対応している部分が事実であるということを捉えている生徒をBとする。	

		<「努力を要する」状況（C）への手立て> ・文末表現に着目させて、わかったことが事実であるということを理解できるように促す。	
5 本時のまとめをする。	記録したことを図（グラフ）や表で示し、そこから事実（わかったこと）を書くとい。		2
6 本時の振り返りをする。 <期待される生徒の振り返り> ・どんなことを学んだか →グラフには文章より詳しいことが書かれていること。 →グラフを使いながら説明すると、より説得力が増すということ。 ・何ができるようになったか →グラフを使って根拠を説明すること。 ・どのように学んだか →グラフに書かれている内容を読み取って、説明する文章をまとめた。 ・どんなことに生かせるか →グラフがある場合には、何が書かれているかを読み取ってみる。 そして、文章の内容を理解するための参考にする。理科や数学、社会の学習にもいかせよう。 →自分で記録文を書くときに、グラフを効果的に使ってみよう。		○どんなことを学んだか、何ができるようになったか、どのように学んだか、どんなことに生かせるかについて振り返らせる。	5

（４）板書計画

シカの「落ち穂拾い」
フイールドノートの記録から
辻 大和

○単元のゴール
頭脳でも勝負！体育祭で勝利をつかむため、記録文をまとめよう。

○学習課題
記録したことをわかりやすく説明する書き方を探ろう。

○お題
二種の動物がつながりをもって暮らしている理由を、三枚のグラフを使って説明しよう。

図 3

図 2

図 1

自分の考え
→と考える

→

説明する文章のまとめ方
 ・グラフの情報
 目立つもの
 ・グラフの情報
 一文で
 ・グラフの情報

→と考える
→と考える
→と考える

○まとめ
記録したことを図（グラフ）や表で示し、そこから事実（わかったこと）を書く。

事実・・・わかったこと

→がわかった。（文末表現）
→がわかる。

（５）備考 1年3組 男子18名 女子18名 計36名